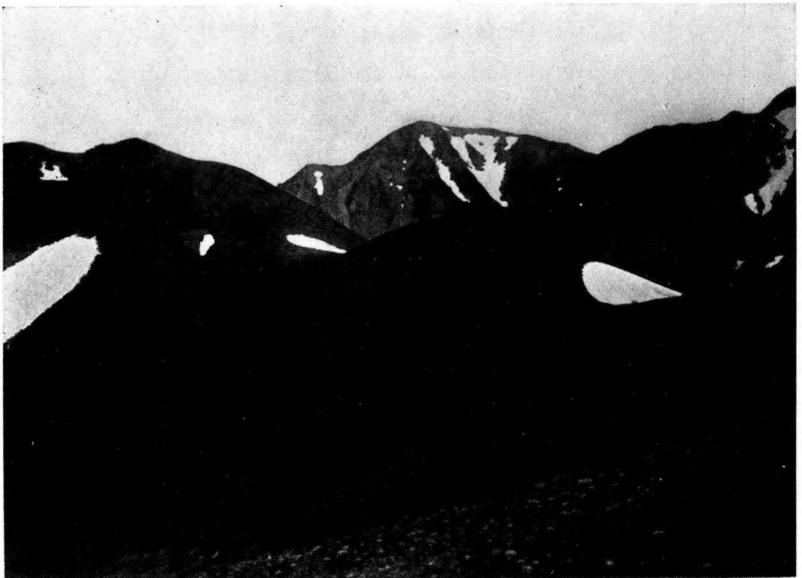


第一圖 駒嶽火口原内爆發現狀（東側外輪山より撮す）



第二圖 女嶽中腹の小焼砂及舊小噴火口（二宮技手）



第三圖 女岳横岳間にある第二火口丘
(男岳より撮す、二宮技手)



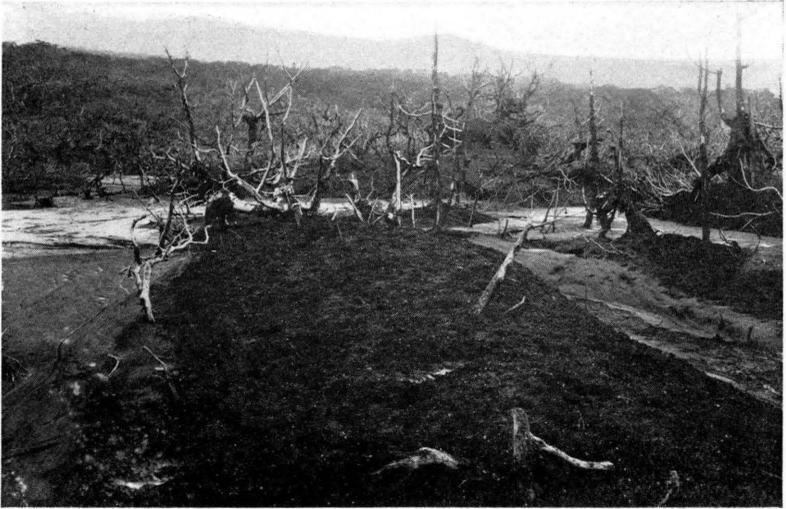
第四圖 女岳横岳間にある第二火口丘
(女岳より撮す、二宮技手)



第十三圖 泥流噴出口(8及9)



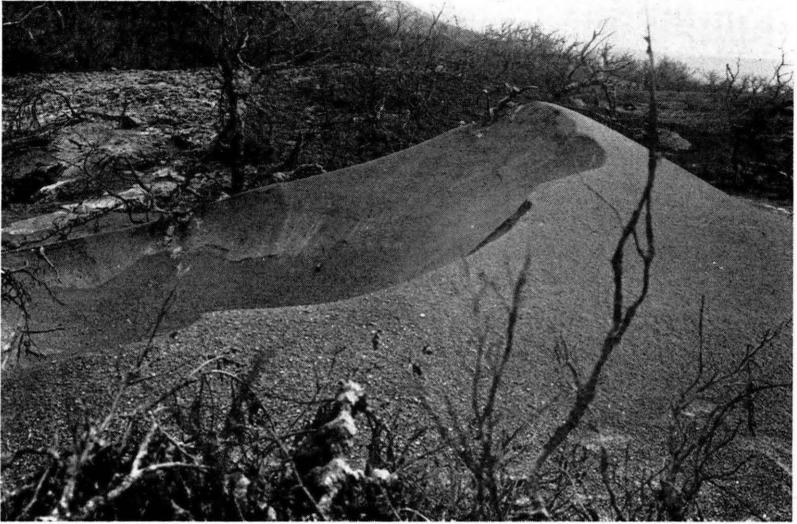
第五圖 駒嶽火口原石ボラ附近樹木被害



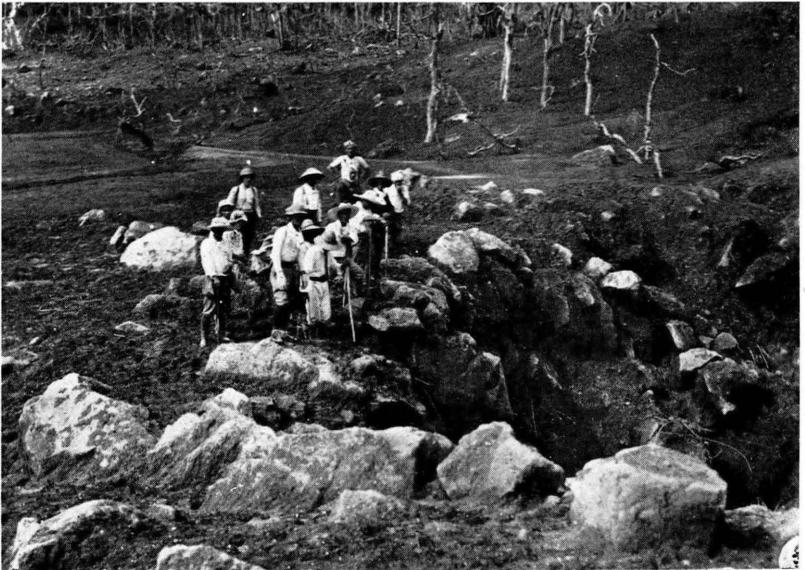
第六圖 駒嶽石ボラ附近樹木被害



第十四圖 泥流噴出口(8及9)の遠望



第七圖 駒嶽大口原石ボラに生じた新噴火口



第八圖 泥流噴出口 (1)



第九圖 泥流噴出口(2)



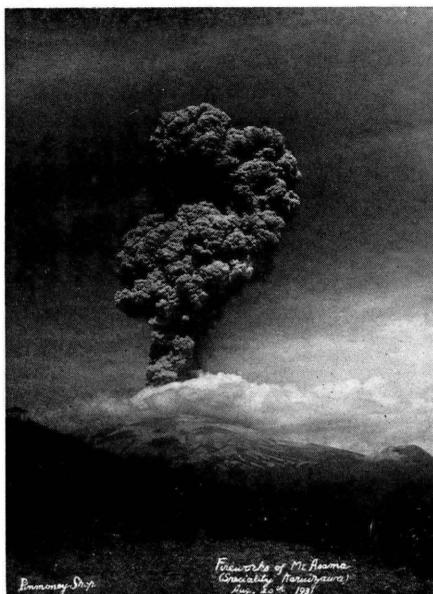
第十圖 泥流噴出口(3)



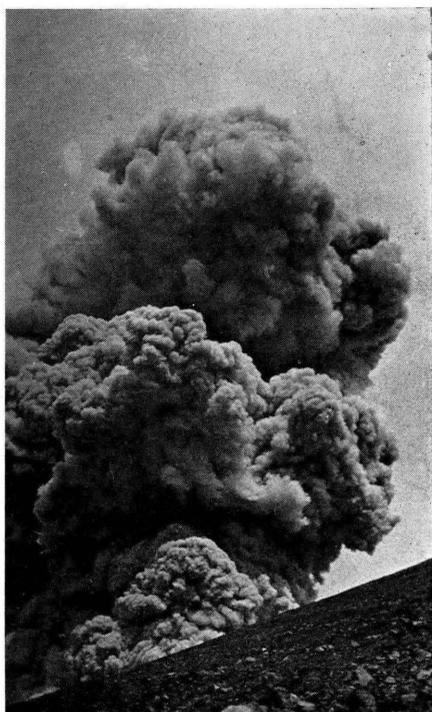
第十一圖 泥流噴出口內壁(2)



第十二圖 泥流噴出口(3)內底



(7) 昭和六年八月二十日九時四十分離山より
清水寫眞館撮影



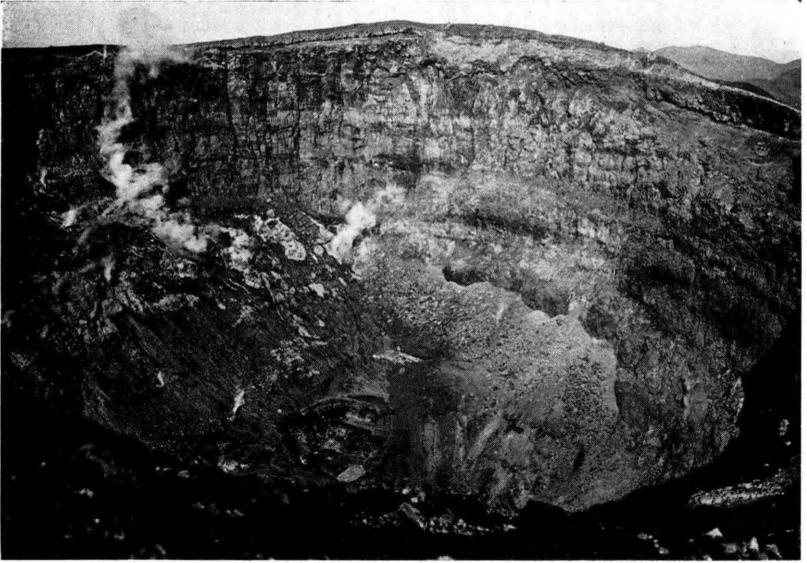
(63) 昭和六年八月六日十三時五十三分頂上附近にて、エリツク、スベレット氏撮影



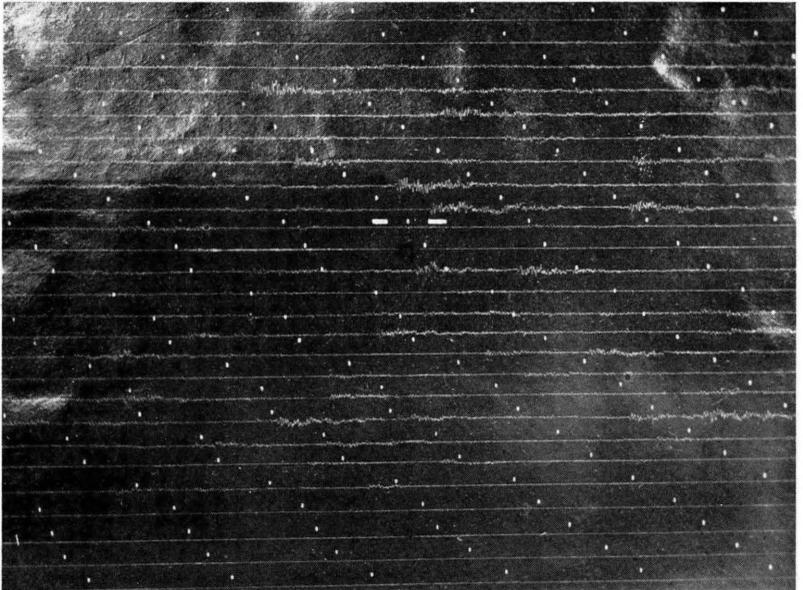
(20) 新らしくボンブが落ちて破裂して飛んだ一片。灰が後れて降つたので、石を起した下には灰のなきを示す。



(2) 昭和六年八月六日午前七時五十分噴氣に伴ひ吸ひ上げられた氣流により山側に山雲の起る狀況



(47) 昭和四年八月浅間噴火口東部より西部を望む清水寫真館撮



(64) 昭和六年八月十四日追分測候所微動記録の一部

渡邊、藤原、深瀬報告附圖（其の三）



6



5



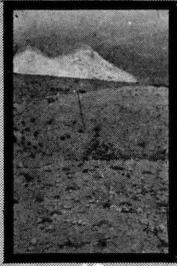
4



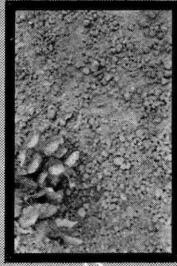
3



19



17



12



8



15



39



28



27



61



60



54



52

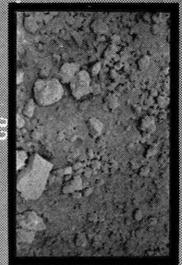
波邊、藤原、深瀬報告附圖（其の四）



1



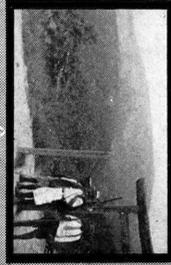
14



22



29



9



15



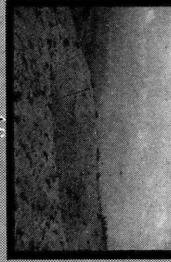
23



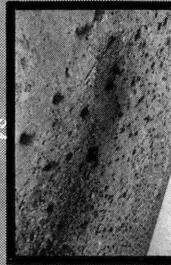
30



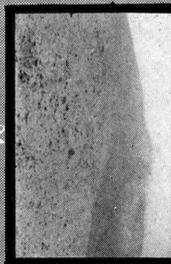
10



19



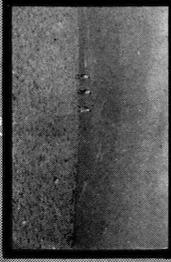
24



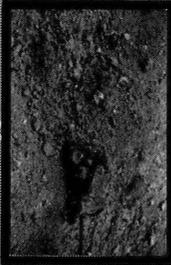
31



11



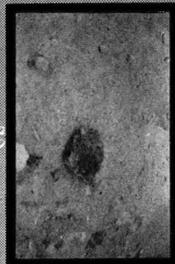
21



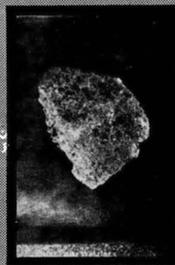
26



32



33



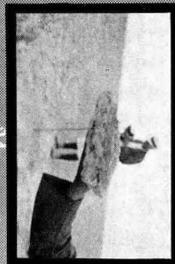
37



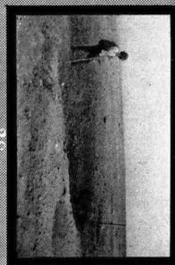
42



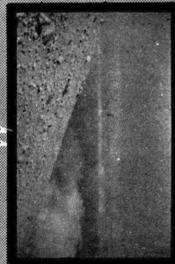
49



34



38



44



50



35



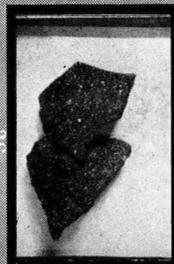
40



46



50



36



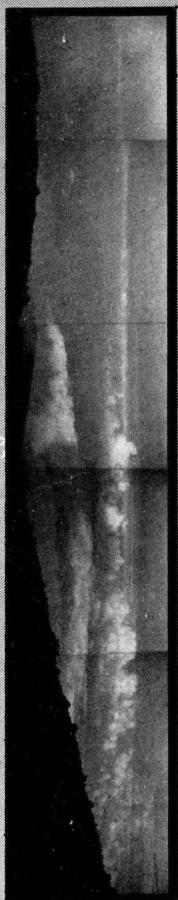
43



48



57



82



84



85



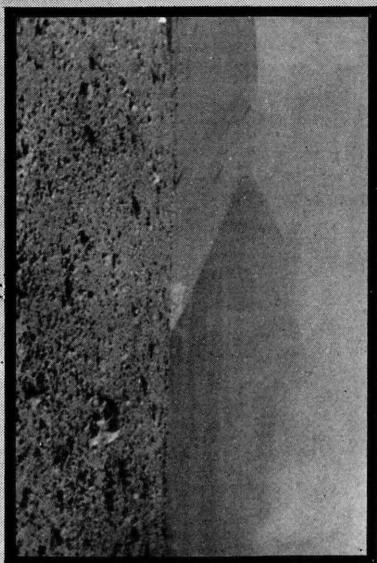
89



86



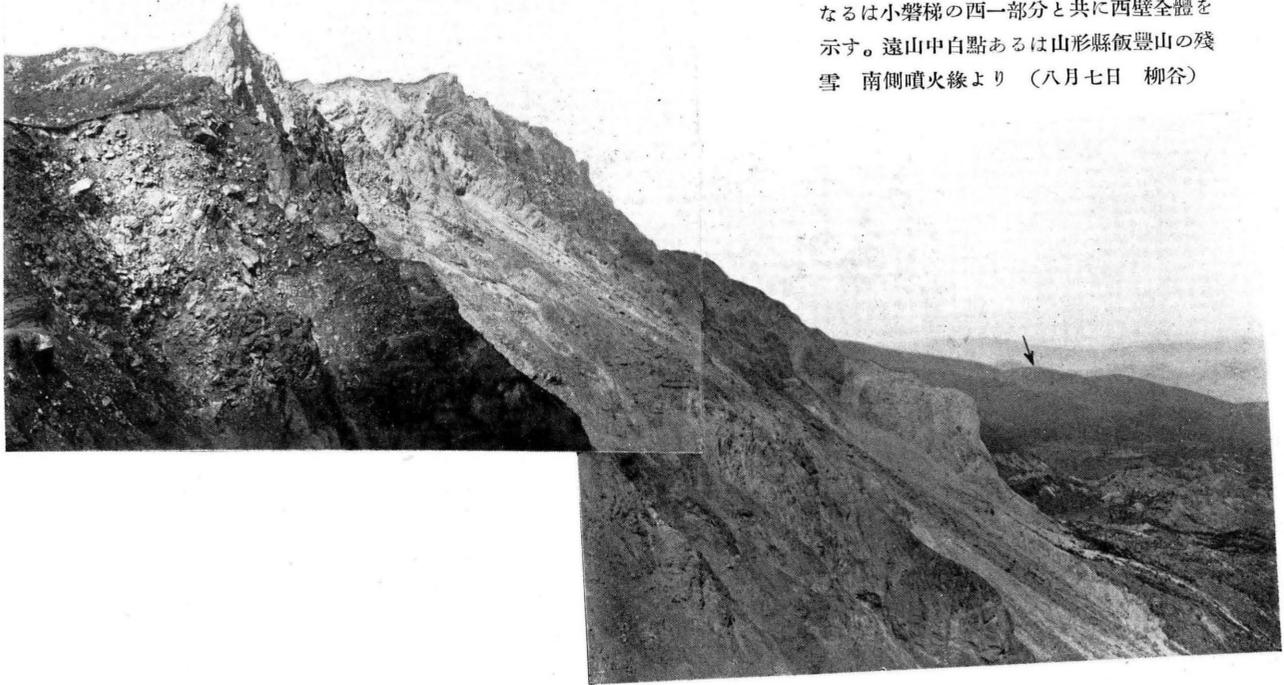
87

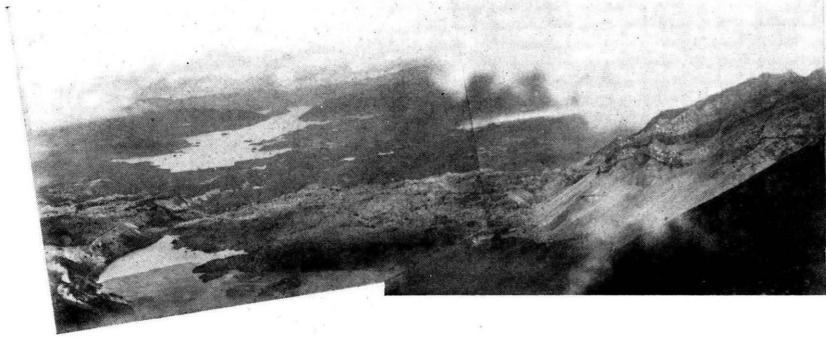


88

第一圖

左に高かく聳えるは天狗岩、その右に連らなるは小磐梯の西一部分と共に西壁全體を示す。遠山中白點あるは山形縣飯豐山の殘雪 南側噴火縁より (八月七日 柳谷)



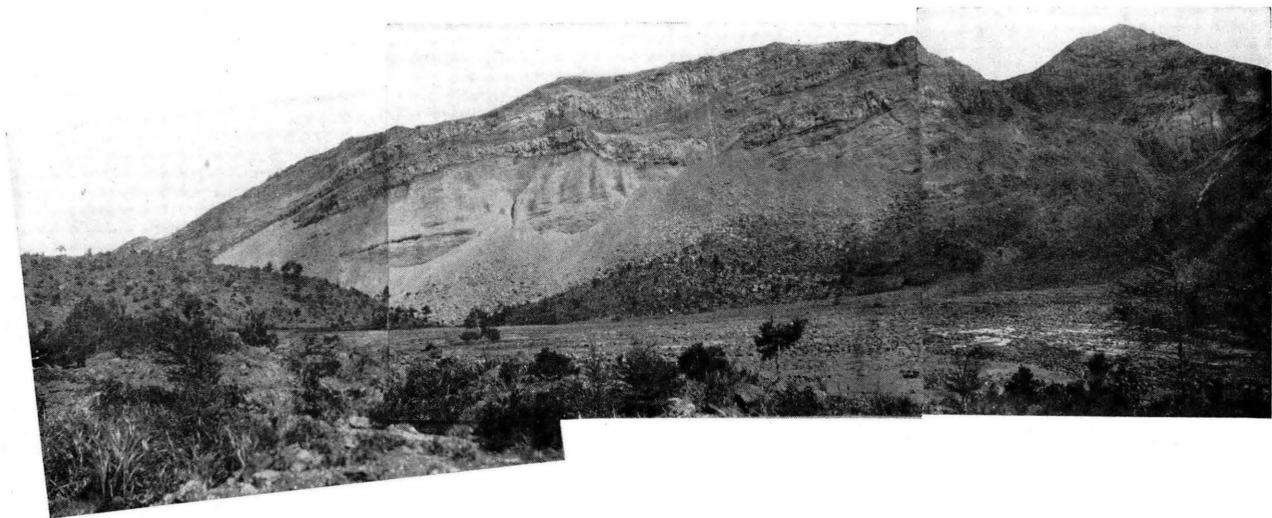


第二

右に高く聳える櫛ヶ峰と共に東壁全體及北方泥岩流出の西半面を示す

中腹より布を引いた様に見えるのは壁の崩壊しつゝある現状
前方の沼の左側に白く見えるのは噴煙その上方は檜原湖、右に半ば霧に閉ざされるは小野川湖
南側噴火線より

(八月七日 柳谷)



第
四

噴火底南東部側

崩壊岩石の前方は廣い平地をなし
以前の噴火口と見らるゝ東半面な
り

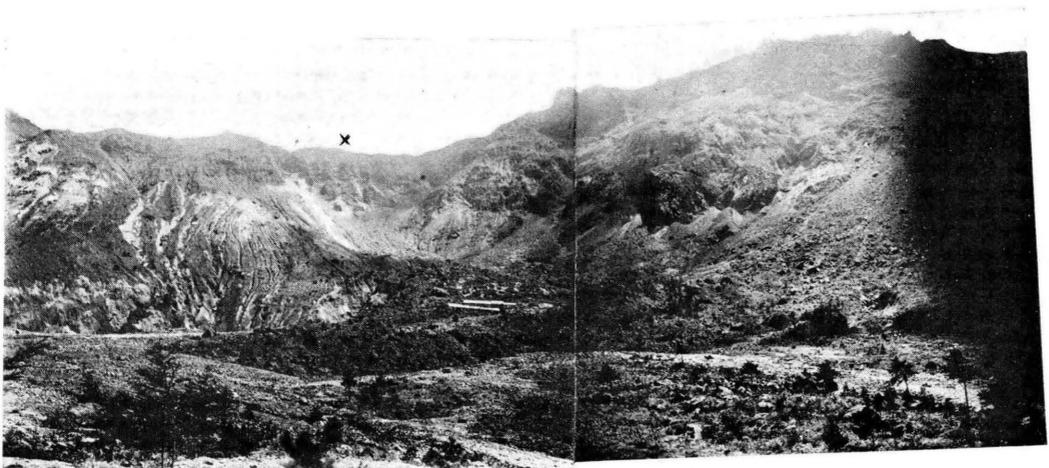
右端の山は櫛ヶ峰

噴火底北部の丘より南東に向つて

(八月七日 柳谷)

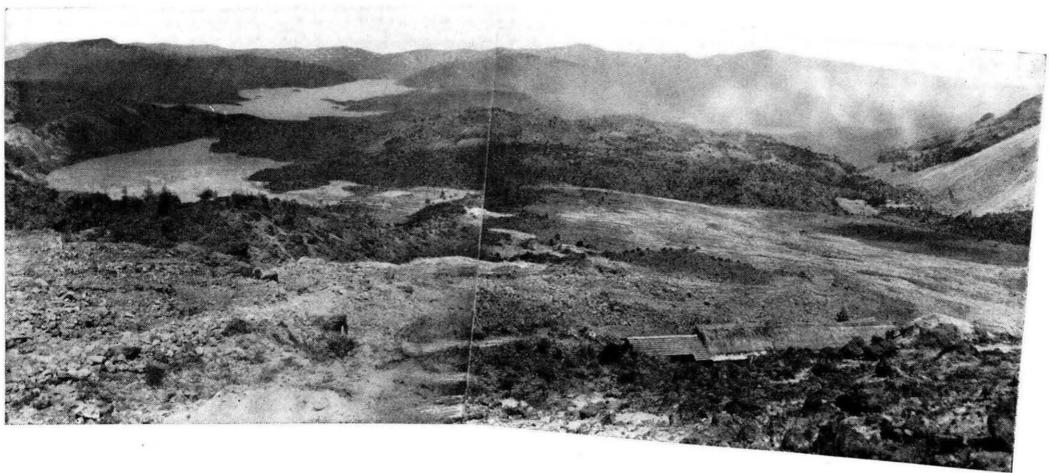
噴火底南側

×印は登山道に接する噴火縁その下の白く見えるのは噴煙その下の家は噴火温泉
寫真第四と連らなり噴火底南東部四分の三
を示す、噴火底北部の丘より南に向つて
(八月七日 柳谷)



第五圖 噴火底及泥岩流出地帯

(右側の壁は寫真第四の末端に續くもの)前
方の沼及右方の砂地より前面は當時の噴火
口ならん
南壁噴煙下の崩壞岩石上より北に向つて寫
す
(八月七日 柳谷)





第二圖 沼の平と赤埴山

三つ白きは小沼にして此の邊を沼の平と言ふ小沼の向ふの小丘は沼の平を圍む外輪の一部最遠は赤埴山にして其の手前に石門が僅かに見ゆ其の直下の白きも沼なり鞍狀部より南々東に向ひて撮す（八月二日藤原）

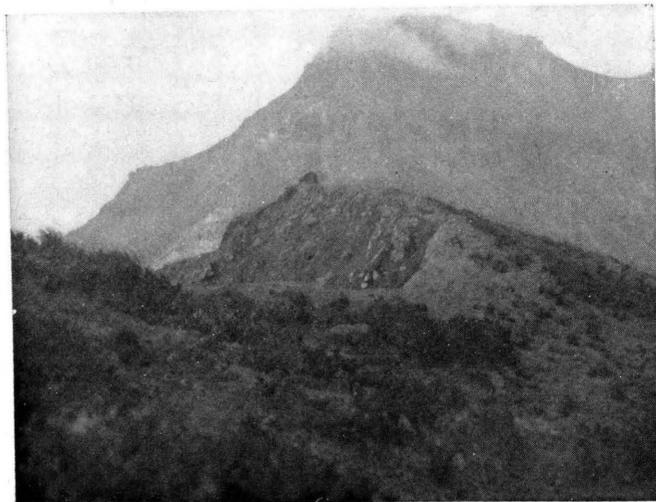


第一圖 天の庭中腹

岩石上に疎生する樹木は悉く東偏してゐる 昭和七年八月七日（柳谷）

沼の平の一部及櫛ヶ峰

山は櫛ヶ峰左端は懸崖にて新火口となる右端白く池の様に見ゆるは砂場なり砂場の向ふは外輪山式の小丘砂場の手前に矢印丸印の見えるは大石に畫ける道しるべにして砂場より約五百米西北西の丘上にあり約五十米高し鞍部より東に向ひて撮る（八月二日藤原）

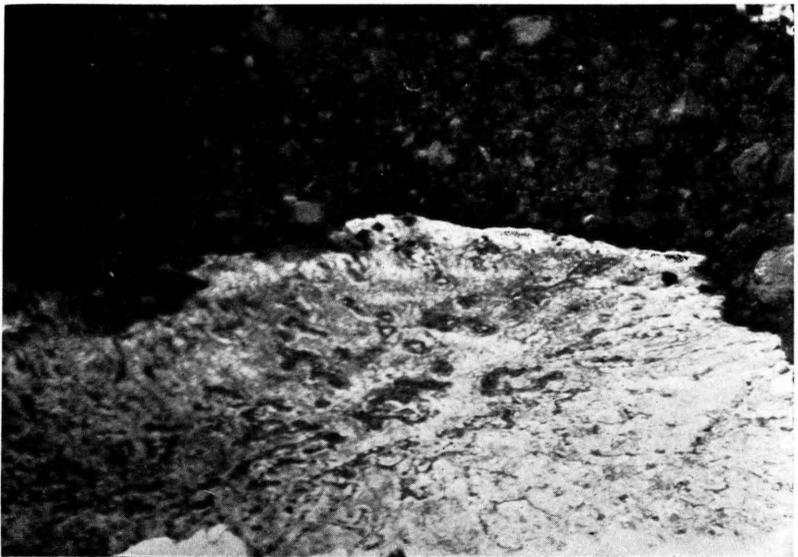


燒山噴氣（其一）



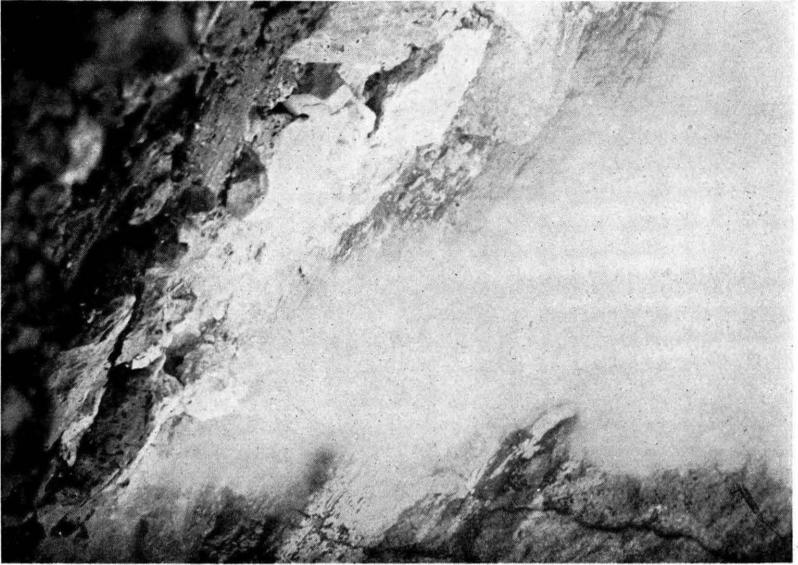
昭和四年八月武岡攝影

燒山舊噴火孔



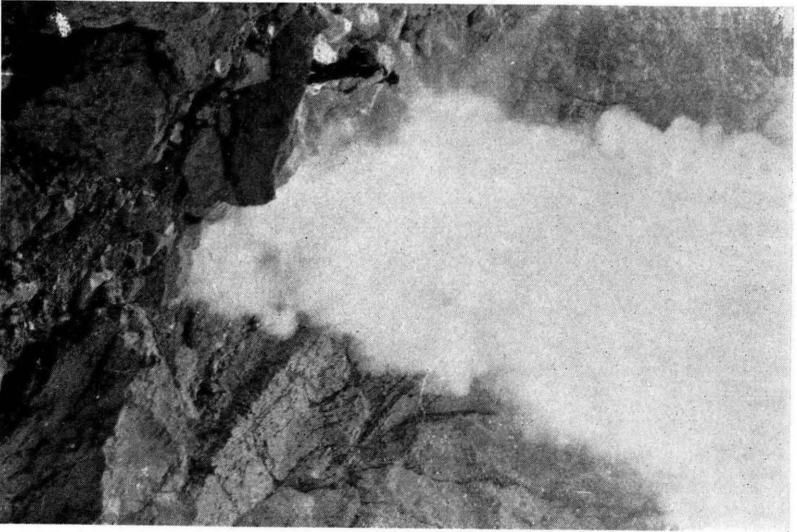
昭和六年八月泉攝影

燒山噴氣(其三)



昭和六年八月泉撮影

燒山噴氣(其二)



昭和五年八月片田撮影



第一圖



第二圖

福江島富江港外黄島に居穴と稱せられる熔岩トンネルがある、延長三百米余極めて美事なものである。第一圖は同島南方海岸の斷崖面に開口せるトンネルの内部を穴の口から撮影したもの、第二圖は居穴第一穴の地面に開口せる所を示す。(尙詳細は調査完了次第報告の豫定)